



韓国の青年たちの事情

姜, 惠珍

桔川, 純子(翻訳)

(Citation)

日韓シンポジウム, 第3回

(Issue Date)

2015-02-27

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010571>



韓国の青年たちの事情

崇実（スンシル）大学校学生／大学教育研究会・大学告発運営メンバー
姜惠珍（カン・ヘジン）／通訳 桔川純子

はじめに（スライド1～3）

「初めまして。私の名前は、姜惠珍です。宜しくお願いします。」

ここまでが、日本語です。これからは、韓国語で失礼致します。私は、現在、崇実大学に通っている現役の大学生で、大学教育研究会・大学告発者連帯の運動に関わっています。

まず「青年失信」と書いていますが、失業すること、信用を失うことの二つの意味を重ねています。「88万ウォン世代」という言葉をお聞きになったことがあるかと思います。非正規就労者の不安定な月額所得に代表させて、現代の若者世代の苦難を表した言葉です。

若者を取り巻く問題はいろいろあると思いますが、今日は①大学の問題から始まって、②住居の問題、③就職という問題、についてお話ししたいと思います。

1. 大学について

【232万ウォン、360万ウォン】（スライド4～8）

この数字「2,321,280ウォン」（10ウォン≒1円）ですが、これは大学生が最低の時給で、一生懸命に、休暇中の2か月間働いたときに得られるお金です（週休手当を含む）。

「360万ウォン」は、登録金の平均的な金額（半期分）です。これは全体の平均ですが、実際には人文系と理工系では違います。私が通っている大学のことを考えても、だいたい450～550万ウォンという金額を半期ごとに支払わないといけません。

朴槿恵（パク・クネ）大統領が約束した「半額登録金の支援」ですけれども、今年はその公約を実現させる年にしないとイケないと考えています。2015年のアンケート（登録金をどのような方法で支払うのか）によると、54%の学生が「借入する」と答えました。公約が果たされていたなら、半分余りの学生がさらに借入するというのはおかしな話です。

国家奨学金の実態を考えると、多くの学生がその恩恵にあずかっていないのです。ですから、学生はアルバイトをして、それで足りない分を借入することが、ここから読み取れます。

【大学構造改革評価】（スライド9）

韓国では現在、大学進学率は80%を越えています。しかし、大学に進学をしてみて、多くの学生が「満足度は低い」と答えています。

これからお話しするのは、昨年末から今年にかけて起こった事件です。韓国に外国語大学という大学があります。期末試験を行った次の日に、成績の評価基準を変更するという通知が出されました。期末試験が終わった直後にこのような告知をする、評価基準を変えるということに対して、学生は非常に怒りを覚えました。学生たちが大学に対して異議を

申し立てて籠城をしている写真です。

こういった事件の背景には、韓国の教育部（文科省）が、これから人口が減少していくにあたって大学の競争力を付けないといけない、そのための構造改革方針を打ち出したことがあります。大学構造改革評価というものです。教育要件、学士管理、学生支援、教育成果といったものを基準にして、大学評価をするのです。

この動向に対して、特に経費が掛からないような事項に関して、大学も非常に早く対応したのです。しかも、そのことが非民主的なかたちで行われたのです。

【卒業延期の抑制】（スライド 10）

大学を卒業してすぐに就職できるわけではありません。ですので、大学生たちは卒業延期の方法として、幾つかの授業の聴講登録をします。その際に1単位幾らという価格などの一覧表（大学別）です。以前は、大学がお金を要求するということはなかったのです。しかし、卒業延期者が増えると在学者数が増えていくので、卒業延期をさせないためにお金を取るという状況になっています。

【私学不正】（スライド 11）

韓国の場合私立大学が圧倒的に多いのですけれども、その私立大学を経営している私学財団の不正が多いのも問題です。これは、去年、尚志（サンジ）大学の不正が問題になって、学生たちが異議申し立てをしている写真です。このとき問題になった金文起（キム・ムンギ）という人物が、再び総長の職に就くということがありました。それについては、「そのような者を復職させるわけにはいかない」と、学生だけではなく、大学の先生たちも一緒に闘争しました。

【20代を悲しくさせる教育制度】（スライド 12）

このスライドは、「20代を悲しくさせる教育制度」というタイトルが付いています。左側が「教育制度の満足度」で、右側が「教育制度の展望評価」です。20代の若者が80%を越えて入っていく大学ですが、実は大学の現状に満足もしていなければ、将来的な展望もないという状況です。

もはや大学は学問の府ではなく、甲と乙との契約関係にあります。甲が上で乙が下ということですが、大学が甲（上位）になり、学生が乙（下位）に転落をしてしまったのです。

2. 住居について

次にお話しするのは、若者・青年が住居問題で苦勞をしているといった内容です。

【居住年数、住居費、寄宿舍】（スライド 14～16）

このスライドは、一か所の居住に若者がとどまっている年数別の図です。1年未満が47.5%、1～2年が23.4%、2～3年が12.1%です（2010年）。慌ただしく転居することは、この図からも分かります。

次に、月額住居費ですが、「435,000 ウォン」です。生活費のほぼ半分は住居費であると考えていただいてもいいと思います。一方、首都圏の大学について、寄宿舍にいる人は10%です。地方から来ている学生は、登録金に加えて「43万5千ウォン」という住居費を月々払いながら生活をしているということになります。

【最低住居基準】(スライド 17～20)

では、若者たちが暮らしている空間とは、どういうものなのでしょうか。濃い色になっているところは台所です。それを含めて一人世帯の最低住居基準は、「14 平方メートル」です。それに満たない右の方の小さな四角は学生の住居空間です。30%の学生は、それに満たない空間に住んでいます。一人世帯の最低住居基準にも満たない空間に住んでいるのです。「住居貧困」と呼んでいます。

さらに、その空間は地下であったり、屋上に設置されたりとか……。受験勉強用の「考試院 (コシウオン)」というのがありますが、「考試院」に暮らしている学生もいます。

トイレや台所の共同利用は、65.2%です。58.7%は立ち遅れた環境です。例えば、日光が入ってこない、非常に寒い、あるいは暑い等々、設備的にも環境的にも非常に劣悪なところに住んでいる人の数字です。

1階にある家・部屋は安いですが。私のような女性の場合は特にそうですけれども、危険性を伴っているからです。扉をもっと厳重にするとか、施設を何か変えた場合には、それについてはお金が掛かってきます。23.9%が、強盗、性犯罪等々の治安の問題に不安を感じています。

【家のないナメクジ】(スライド 21)

「家のないナメクジのような青年の住居」と書きましたが、若者を取り巻く住居の問題には、二つの問題があると思います。一つ目は住居費の負担が大きいこと、もう一つは住居があったとしても劣悪な環境であるということです。

こういった住居問題を解決するために、新婚の夫婦や学生たちに対して供給される「幸福住宅」というものがありますが、数が少なく、なかなか入れません。

住宅問題の改善について、国家が対策を立てる必要があります。賃貸住宅、公共住宅など、財政を投与して改善をしなければなりません。民間任せではいけないと考えています。

3. 就労について

【苦しいから青春だ】(スライド 22)

最後に就労の問題です。韓国で、「青年失業」問題が大きくなっています。話題になった本に、「苦しいから青春だ」というタイトルの本があります。しかし、「苦しいから青春」というのではなく、もうただただ苦しい……。若者だけでなく中年、老年になってからも、ずっとその苦しさが続いているのが現状です。

【4,269 万ウォン】(スライド 23)

だいたい卒業してから就業できるまでに1年かかる感じですが。大学を卒業するまで5年というのが一般的な状況になっています。

青年が職に就くまでに掛かる総額は「4,269 万ウォン」と発表されています。これは、大学の登録金、生活費、その他資格をとる勉強の経費など、いろいろなものが含まれた金額です。それだけ高い金額が掛かっているわけです。

【8つのスペック】(スライド 24)

実際に失業すると、「どうしておまえはそれだけしかできないのだ」、「失業なんかするのだ」ということを言われます。その場合、学生は「自分に実力がないからだ」と答えるの

がせいぜいです。

大学生は「実力が不足している」ということを認識しながら、その不足部分を埋めていくために、「8つのスペック」というものを何とか獲得しようとしています。「学歴、単位、TOEIC、語学研修、資格、ボランティア、インターン、受賞歴」です。これらに掛かる費用も、それは非常に大きなものになります。

しかし、「8つのスペック」を達成したからといって、必ずしも就職できるわけではありません。すると、「スペックを全部達成したのに駄目なのは何故だろうか」ということで、「それは自分の外見がよくないからだ」と考えるのです。昔は女子学生だけでしたが、いまは男子学生も美容整形することもあって、「就活美容整形」と言っています。

最近では、「スペック超越」という主張も出ています。マスコミや大企業も、「そんなにスペックを積んだことを評価するわけではない」、「大学生は過剰に反応をしている」と言っています。大学生は非常に混乱をしている状況でもあります。

【青年失業、非正規就労】(スライド 25~27)

スライドのように青年失業率は再び高くなっています。卒業した時点でみれば 55.3%、2人に1人は失業者という状況です。また、就業したとしても 32.4%、3人に1人は非正規職という状況です。

【三棄世代】(スライド 28~30)

左側は「雇用水準の満足度」、右側は「雇用水準の展望評価」ですが、ともに 20 歳代が一番低いです。20代を息苦しくするような雇用状況です。ですから、私たちの世代について「三棄世代」、すなわち「恋愛、結婚、出産」の三つを放棄している世代と呼んでいます。

そういうような状況を表して、「就職はロト」、宝くじみたいなものであるとか、「私の人生は卒業で止まってしまった」という表現もなされています。「三棄世代」であるとか、「88万ウォン世代」と表現されること自体、若者としては孤独を感じてしまいます。

【ナメクジ協同組合】(スライド 31)

このスライドは、半額登録金運動の写真です。政治家を招いて討論したり、様々な取り組みをしました。2011年のときには、私もそういった現場にたくさん出ていました。先ほどの写真の政治家は大統領候補ですが、他にも一人デモであるとか、ネットワークをつくるであるとか、野党と協同するであるとか、ものすごく運動を展開しました。

その連帯を「半額登録金国民本部」という組織にまでしました。その結果、国家奨学金の導入、登録金の上昇抑止など、成果があったと考えています。大きく半額登録金運動を展開したのですが、その後、やや静かになったかなと思っています。しかし、構造改革問題など、今後解決しないといけない問題が多々出てきていますので、再び、大学生自らが中心になって取り組んでいく状況にもなってきています。

例えば、この写真に出ている若者ですが、「ナメクジ協同組合」をつかって住居の問題を解決しようとしています。自分たちの問題を自分たちで解決しようということで、住居問題の協同組合をつかって若者自らが解決をしようとして取り組んでいる事例です。自分たちでファンドをつかっていたり、ソウル市と協力して事業を進めていたり、若者自らが動いています。

【希望は勝ち取るもの】(スライド 32)

私たちは再び集まって、討論もしたり、研究会もしたりというような、取り組みをしています。もう少ししたら、また韓国の大学生が中心になって動いた半額登録金運動の新たな成果を、皆さんにお話しできるのではないかと思います。

「三棄世代」「88 万ウォン世代」というのは、上の世代の人たちが名付けたものですが、私たちにこういった試練の社会をくださったということかもしれません。私たちは、だからといって諦めるということはありません。

何とか人間らしく生きられるような生き方、決して諦めずに自分たちで勝ち取っていくものなのだと考えています。「希望というものは大人から与えられるものではなく、自分たちが自ら勝ち取っていくものなのだ」と考えています。

ご清聴、ありがとうございました。

【特別発言】 大学教育研究会・大学告発運営者／全振瑋（チョン・ジニ）

韓国の学生運動は、各大学に学生会（学生自治会）があって、その自治会が中心になって進めてきた歴史があります。2011 年に大きく運動を展開した時も、学生会の連合会が動いて活発に取り組みました。2012 年、半額登録金について、社会的にある程度成果を収めました。ただし、大学内においては、学生会の力が少しずつ弱くなってきています。

大学の中で大学生の共同体が弱くなってきている中で、先ほどお話したような住居の問題、生活費の問題などをどうしていくのかという課題もあるわけです。

いろいろな問題に直接的に怒っている当事者が、まず集まろうというようなことでつづいたのが「大学告発者連合」の組織なのです。また、学生会も連合組織になっているので、そのネットワークをより強化をするという、二つの目的を持って作ったのが、「大学告発者連合」です。

質疑応答

【補足①：教育の質】

Q：当事者である学生と一緒に教育を考えていかないと前進できない。大学教育自体や教育の質を学生も参加しながら変えていく、こういう活動が韓国でもあるか。

A：先ほど少しお話したのですが、大学構造改革評価が大学の教育の質にも関わってくると思います。教育も大学評価の指標になっています。大学はその指標について、高い点数を取るために努力をしています。本来であれば、大学生のために教育の質を高めることだろうと思うのですが、いったいこれは何なのだろうと疑問を持つようになっています。

今年の4月に大学生の共同行動を行う予定です。要求の一つは、大学構造改革の評価・指標を撤回せよというものです。現在政府が提示をしている大学構造改革評価というものは、それは本来の評価ではないと私たちは考えています。そもそも、何が大事なのかとい

うことです。大学はその当事者である学生の話をもっと聞くべきです。どういうふうに大学をしていきたいのか、学生の話をもっと聞くよう要求しています。

現在、政府の方で提示している評価というものは、決して教育の質を高めるというものではなくて、より一層、競争をさせるというようになっています。ですので、それを撤回して、教育の公共性というものを考慮しなければ、大学はただの金もうけになるということを私たちは言っています。これが、いま一緒に運動している若者の共通認識です。

【補足②：教授と学生との地位・関係】

Q：韓国の大学における教員と学生の地位・関係はどうか。

A：（会場通訳として参加の朴さん）こんにちは。いま、神戸大学に留学しているパクと申します。日本の大学で一番驚いたというか、私が韓国で経験していなかったことのひとつが「ゼミ」です。日本の大学は3年生ぐらいになったら指導教員を決めて、一緒に研究をしていく「ゼミ」が活発だと思うのです。韓国の私の大学ではそういうのはなく、担任の先生はいるのですが、ほとんど関わることはなくて、普通に講義をしていただくというかたちでした。卒論も事務的に書いているだけで、そんなに先生と関わることはないです。

そして、学生から先に先生に伺って、「こういうふうにしたいです」等というの、あまりないのでは……。あまり意思疎通がないと感じています。

【補足③：就活システム】

Q：韓国の就職システムも、日本と同じように卒業前に一括で内定をするシステムなのか。

A：韓国も、やはり内定というようなことがあります。4年生になると、企業は就職希望者を募集します。期間は決められていないのですけれども、実際にあります。公開で採用すれば一番いいと思うのですけれども、求人が非常に少ないです。学生が「行きたいな」と思うような企業の募集人数が非常に少ないです。「卒業延期」というのも、現役の学生の方が有利だということなのです。それで卒業を延ばすという状況になっています。